

# テーマ 「道徳教育の推進 ～自己を見つめ、共に認めあえる授業づくり～」

## 1. テーマ設定の理由

### (1)道徳教育に求められることから

学習指導要領には、改訂の要点として総則に「道徳の時間を要として学校教育活動全体を通じて行うもの」とあり、道徳の時間の役割が明確にされ、道徳教育が道徳の時間だけで行うものではないことが示されている。今回の研究ではこのことを踏まえ、道徳の時間の授業改善を図るとともに、各教科での道徳的価値の充実をめざすこととした。

また、道徳教育を推進するにあたる配慮事項として、「道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め」、「道徳的価値に裏打ちされた人間としての生き方についての自覚を深めること」も明確にされている。

### (2)これまでの2年間の研究から

新学習指導要領が告示され、学校教育全体で道徳教育を行うことの重要性が明確にされた。このことを受け、1年次は道徳の時間をどう展開すればよいのかという初歩的なところから出発した。そのため、職員の研修に重点をあてながら、「中心発問」に着目し授業実践をすすめるとともに、これまでの担任中心の道徳を残しつつ、輪番制で全職員が道徳の授業を行うこととした。

また、『中学校解説 道徳編』第2節(1)「道徳教育と各教科等の目標、内容及び教材とのかかわり」において、「道徳教育の目標や内容と各教科の目標、内容及び教材とのかかわりを通した道徳性の育成」が書かれており、「各教科等において道徳教育を適切に行うためには、まず、それぞれの特質に応じて道徳教育にかかわる側面を明確に把握し、「道徳的価値を意識しながら指導すること」を通して、道徳教育の効果を高めることが求められている。さらに、同書には各教科の目標と道徳教育との関連についてもその重要性を明らかにしている。

これらを受け、2年次は「各教科での授業の工夫」に着目し、授業実践を重ねた。別葉表の作成を行なうことで、各教科と道徳との関わりを明示し、教員間で年間を通して確認し合うことができた。教科として道徳に取り組むという押さえではなく、全教育活動を通して全職員で子どもたちの心の成長に寄り添い、考え合う姿勢を持つことができたように感じる。これまでの2年間の研究を経て、職員の道徳に関する考え方が変わってきたことは確かである。

### (3)本年度の副題に関わって

2年間の研究を通して、教師間の道徳の授業への意識が変わってきたことは確かである。しかし、学年会での道徳の教材研究、生徒への言葉かけ、教室の掲示物など、教師の独自の取り組みをより共有されるようにする必要がある。また、道徳の時間を教師が楽しむようになってくると、以前は道徳に関して消極的だった生徒たちも、道徳の時間に違和感なく自由に自分の考えを発表できる場としての認識を持つようになってきたと思う。これらの現状から、やはり道徳の時間をより楽しく、そして子どもたちの心に響く時間にするために研究する必要があると感じた。そこで、本年度はサブテーマに「自己を見つめ、共に認めあえる授業づくり」とし、自分の判断の根拠を話し合う授業の展開のさまざまな工夫を探っていきたいと考える。

## 2. 本年度の研究について

### (1)基本的な考え方

- ・判断の根拠となる話し合いができるようなさまざまな工夫をする。
- ・子どもの本音の部分が出せるよう、繰り返し発問や揺さぶりのための発問を工夫する。
- ・クラスの実態にあった、心に響き、共感が得られる教材を精選する。

### (2)本年度の研究計画

#### ①授業の振り返りシートの統一

生徒評価を生かした授業の反省をし、授業形態（導入のしかたや話し合いのしかた）が適切かを判断し、どのような授業が生徒の反応が良かったかを実践研究する。

〈共通 振り返り項目〉

	たいへん	←	ふつう	→	わるい
① 今日の授業は考えるところがあったか	5	4	3	2	1
② 共感・感動したか	5	4	3	2	1
③ 自分自身をふりかえることができたか	5	4	3	2	1
④ 新たな発見があったか	5	4	3	2	1
⑤ 資料がよかったか	5	4	3	2	1

#### ②授業形態の研究

関心をもって考えさせる導入、協同学習を取り入れた話し合い、感動を共有できる終末などの工夫を考え、その評価をする。

#### ③授業研究の実施

中研・大研を道徳で行う。全職員同じ立場から研修をし、情報交換を行うようにする。

#### ④春の現教での指導案の研究ならびに模範DVDの視聴。

指導案に付録として付いていた参考DVDを学年会で観て、意見交換・授業の進め方の共通理解を図る。

#### ⑤副教材の購入

全学年あかつき出版の副教材を個人持ちで購入している。しかし、学校でさまざまな副教材を保管し、いろいろな教材を使って授業ができる体制を作っていきたい。昨年度は2年生の道徳副教材『明日をひらく』東京書籍のものを40冊購入した。今後も学年ごとに別会社の副教材・文部科学省が出している道徳教材も購入して、教材の精選をしていきたい。

#### ⑥教材の蓄積

本年度も先生方から実践を集め、閲覧できるようにファイリングしていく。校内LANにおける共有フォルダーにもデータを保存していく。

#### ⑦学年中心での道徳教育の計画作り

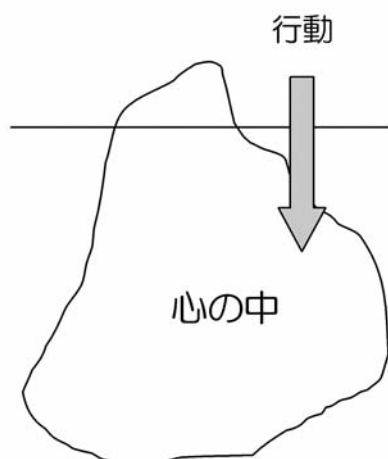
学年主任または副学年主任に道徳部会に所属していただいている。そのため、学年で効率よく道徳の時間を計画していくことができると考える。また、輪番制以外の教材については学年会で教材研究をする時間の確保をしていきたい。

学年で道徳について話し合う機会を増やすことで、縦割り行事を活かした学級・学年の取り組みも円滑に行えるというメリットもある。

道徳の時間においては昨年までの研究を踏まえ、資料の読解に終わらないよう、資料を通して自分を見つめ直せるものとなるように授業の組み立てを工夫していく必要がある。以下は研究一年次に現職教育で畿央大学教授 島 恒生先生にご指導いただいた授業の組み立て方である。

導入	ねらいとする主題への方向付け。(向く) ・ねらいにかかわる話題や場面を手がかりに問題意識を引き出す。 ・資料の補説や雰囲気づくりに使うこともある。
展開	前段 資料の世界に入り込み、ねらいとする道徳的問題を追求し合う。(つかむ) ・中心発問…いわゆる中心となる場面の発問で、児童生徒の多様な感じ方や考え方を反映させる。 ・基本発問…中心発問の問題追求を一層効果的にするために、その前後に投げかける。 ・補助発問…児童生徒の意見をより明確にしたり、深めたりするための言葉掛け。
	後段 自分自身の問題としてとらえ直す。(見つめる) ・資料での話し合いを各自の生き方に反映させ、生活経験の話し合いなどを通して自覚を深めることができるようにする。
終末	ねらいとする道徳的問題のまとめ。(あたまめる) ・余韻を残したり、印象に残る端的なまとめをしたりする。

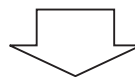
#### 中心発問の組み立てについて



- ①資料の中で登場人物の気持ちの変化が大きいところ、道徳的な変容が大きいところに中心発問を設定する。
- ②気持ちの変化を表面的に捉えるのではなく、なぜそう考えたのか、道徳的判断の根拠を問うようにする。  
⇒そのために副詞的な表現に注目させ、登場人物の心情をより深く考えるように促す。

#### 副詞的な表現とは

〇〇くんは肩をがっくり落として帰って行った。  
体にぽっかりと大きな穴があいたように感じた。



行動面を考えるにとどまらず、道徳的価値について考えを深め、自分なりに発展させていく思いを育むことにつながると考える。

◎道徳の時間は様々な場で育まれる道徳性を「補充・深化・統合」する時間。生徒がどんな体験をしているかを事前につかんでおくことも大切であると考えます。

### 3. 実践例

道徳の授業における効果的な授業展開の工夫例

#### 導入の例

【道徳の授業の方向付け】 道徳的価値を示唆する発問の工夫

例 事前アンケートの結果の予想→興味づけや雰囲気作り

最近の時事問題を提示する→資料の補説、問題意識を持たせる

固定概念を崩す資料の提示→思考意欲を高める

写真や場面絵の一部、数字などを見せ、考えさせる→興味づけ、テーマについて考える動機づけ

など

展開の例

【グループエンカウンターを使った実感を活かした展開例】

項目	4
1に自分の名前を書きます。→	
1 責任感がある。	
2 ユニークである。	
3 チャレンジ精神がある。	
4 さわやかである。	
5 面倒見がよい。	
6 リーダー性がある。	
7 センスがいい。	
8 落ち着きがある。	
9 やさしく、思いやりがある。	
10 明るい。	
11 運動神経がよい。	

・「まるごと好きです」（『明日をひらく』東京書籍）

①導入でお互いの長所を考えさせるエンカウンターを入れる。  
左の項目（20項目を用意）の中から、まず自分に当てはまると思うもの三つに○をつける。

自分が書いた列を隠して、班の人にまわし、班の人はその人に当てはまる項目三つ○をつける。これを繰り返す。

全員書き終わってから開き、自分がいろいろな捉えられ方をされていることに気づき、お互いどんな気持ちになったかを話し合わせる。

②資料を読み、中心発問で「作者が『きれい』も含めて『まるごと好きになる』と考えていることについてどう思うか」と発問したときに、生徒の「まるごと好きになれたらとてもいいと思うが、嫌いなところばかりが目立って、まるごと好きになてなれない」といった反応に対して、考えを深めるためにエンカウンターで考えたことを思い起こさせる。

その際、項目には長所ばかりが書かれており、しかし、それは裏を返せば短所になることを押さえさせ、再度考えさせるようにし、自己の向上に生かせる考え方ができるようにする。

【それぞれの立場に立ち、良い点・悪い点を話し合う展開例】

・「コンビニのゴミ」（自作教材）

最近コンビニのゴミ箱を店内に設置している店もある。客の利便さを考えると店外にある方がよい。なぜ、店内に設置しているのかを考えることで、公共のマナーについて考え、さまざまな視点からものごとを考える必要があることに気づかせる。

- ①2枚のコンビニの写真を見せ、違いを見つけさせる。だんだんゴミ箱にズーム。
- ②ゴミ箱が店内にあることに賛成か反対かを自分の立場で考えさせる。
- ③どんなものが捨てられているか、ペアで意見交換させ、捨てられていたリストを見せる。
- ④店と客のそれぞれの立場で良い点、悪い点をグループで話し合う。
- ⑤再度、自分の意見を発表する。

初めは客の立場で考えていた生徒がほとんどで、利便性を見いだせないことから、店内にゴミ箱を設置することに反対する生徒が多かった。しかし、実際に事業ゴミとしてコンビニが多額の費用を支払っていることや、近隣に迷惑をかけないようにおいてくれていることなどを知り、グループで「良い点」と「悪い点」を整理することで多角的な見方ができるようになった。



コンビニに捨てられていたゴミ

コンビニ弁当の容器	おにぎりの袋	マネキンの首
エンドウ豆 20kg	ファーストフードのゴミ	赤ちゃんのおむつ
古タイヤ	ガラス付きの額縁	電話機
BBQの後のゴミ	ガーデニング用の土	スプレー缶
電子レンジ	幕の内弁当の容器20個	鉄アレイ
フライパン	花束	運動靴
イスのフン	ジュースのペットボトル	14型テレビ

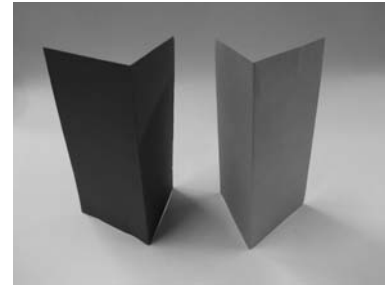
コンビニの店内ゴミ箱について  
立場ごとに整理してみよう

	良い点	悪い点
コンビニ		
お客様		

【支持する、支持しないの立場をカラーカードを使って明確にする展開例】

・「元さんと二通の手紙」（『自分をのばす』あかつき教育図書）

資料は前半の母親からの手紙が届くまでと、後半に分ける。元さんの行動についてどう思うかを二色のカードを使って提示させる。二色のカラーカードを一人一枚ずつ渡し、机の上に支持するなら赤のカード、支持しないなら青のカードを出させる。色画用紙を10cm角くらいに切り、半分に折れば簡単にカードが作れる。コの字の机の配置にさせ、他の人が何色のカードを出しているかを一目でわかるようにし、気になる人の意見を質問しやすくした。意見交換しながらカードを変える生徒もあり、なぜ変えたかを聞いていく中でさらなる深まりが得られた。



終末の例

【登場人物の生き方を通して自分の生き方を考えさせる工夫】

・「ロスタイムのつづき」（『自分を考える』あかつき教育図書）

何度も挫折からはい上がってきたカズを支えていたものについて考え合ったあと、日本人初のプロフットサル選手、高橋健介さんのドキュメンタリー映像を見る。

【卒業式の先輩が歌った歌を聞かせ、過去の体験を思い起こさせる工夫】

・「ありガトオヨ」（『自分を考える』あかつき教育図書 補助教材）

卒業式後の道徳の時間。卒業生がいきものがかりの「ありがとう」を卒業生の歌として選曲し、涙を流しながら歌っていたことが鮮明に印象に残っていた。資料は卒業とは関係ないが、タイトルが似ていること、そして、卒業生が感謝の気持ちを込めて歌い、その気持ちを在校生も感じ、卒業生への感謝の気持ちを改めて感じたことをフィードバックさせるためにBGMとして流した。登場人物「だいさん」「高橋さん」「まつ江さん」へと感謝の気持ちがひろがり、そして、感謝の気持ちが輪となっていることを受け、自分の体験と結びつけさせ、共感させる効果もあった。

【予備資料を準備しておき、新たな視点を与え、考えを深めさせる工夫】

・「アンパンマンのマーチ」（歌「アンパンマンのマーチ」より）

平成23年3月11日、未曾有の大災害となった東日本大震災が発生した。被災地域では、不安な状況が続く中、被災地の方々を励ますため、東京FMが系列のラジオ局を通じて人気アニメ「それいけ! アンパンマン」のテーマソングを繰り返し流していた。「心にしみる」「子どもたちが元気になれる」と反響を呼んでいた。アンパンマンのマーチにより力を与えられたのはなぜか、アンパンマンのマーチが私たちに伝えているのは何か、それを考えることで、生きるとは何かを見つめていく。

作詞したやなせたかしさんが歌に込めた思いや被災者へのメッセージを補助教材として提示し自分たちが考えたことに加え、作者の思いを知ることで自分の考えを深める。終わりに歌を流す。



(c)やなせたかし/フレーベル館・TMS・NTV

※予備資料

作詞した原作者で漫画家、やなせたかしさん（92）が歌に込めた思いや被災者へのメッセージを寄せた。

「そうだ うれしいんだ 生きる よろこび」で始まるこの歌は、自分を力づけるために作りました。

この歌で元気づけられている人がいるのなら、うれしいことです。

「なんのために 生まれて なにをして 生きるのか」という歌詞があります。今、そのことが分からない人がとても多く、年間3万人もの自殺者がいるのです。

でも、生きていることが大切なんです。今日まで生きてこられたなら、少しくらいつらくても明日もまた生きられる。そうやっているうちに次が開けてくるのです。今回の震災も永遠に続くことはありません。

イラストのアンパンマンは、いつものニコニコ顔ではありません。げんこつを握りしめ、戦う姿勢です。地震と戦うことはできないけれど、自分自身の中にある弱い心をやっつけてしまいなさいーというアンパンマンからのメッセージです。

#### 4. 成果と課題

これまで3年間、子どもたちの心に響く道徳の授業を行えるよう、基本から研究を行ってきた。道徳のねらいに迫るために中心発問をどこに設定し、どう生徒に考えさせればよいかがわかってきた。教師が道徳の授業の組み立て方を学べたことは成果の一つといえる。

しかし、失敗も多々あった。教師が力があると感じた教材、感動した教材は、やはり子どもたちも同じように共感している比率が高い。教師が教材をとことん研究し、情熱を注いだ教材には、それだけでパワーがある。それを見つけ出した時の充足感、達成感は教師として嬉しいものであった。しかし、教材のパワー、インパクトに頼りすぎ、道徳の時間として子どもたちに考えさせたいポイントを見失ってしまうこともあった。

中学生は多感な時期である。自分の考えをみんなの前で発表することには抵抗を感じる生徒も多い。子どもたちは友達に、親に、教師に、いろいろなものに気を遣い、本心を隠す。道徳の時間はきれいごとを述べる時間ではない。子どもたちの考えたことを聞き出す教師の工夫が必要なのである。導入、展開、終末とそれぞれに適した問い方、考えさせ方がある。同時にそれは教師の特性が活かされるものである。先に述べたように、教師が開発した教材の中には、道徳の授業の形としては失敗だったものもあるだろう。しかし、そこには、教師のユーモアあふれる提示の仕方があったり、究極の選択を迫る問いかけがあったり、時に人生経験豊富な教師の体験談が語られる。そんな道徳の授業は生徒たちの心に残っているようである。生徒の生活作文を使ったもの、時事問題から自作したもの、教師が感動した人物の伝記など、多様な教材が開発されるようになってきたことは、紛れもなく成果の一つといえるだろう。

また、道徳教育の充実において大切なのは、授業や行事などだけでなく、学級経営が基本にあることも実践を重ねるにつれ、明らかになってきた。クラスの現状をきちんと把握できていると、子ども一人一人への問い方が変わってくる。問い方が変わってくると、子どもたちの反応も変わってくる。道徳の時間が楽しい時間と感じられるようになるのである。

本校のこれまでの取り組み、縦割りの学校行事や授業、協同学習のスタイルの授業形態などは、道徳の授業の根底を作り上げていると思われる。加えて、本校の教師は休み時間も教室やローカにいる。そこで子どもたちとコミュニケーションをとることを心がけている。試験的に行った輪番制の道徳授業であったが、担任だけでなく、教師全員で子どもたちに寄り添うことで、いろいろな情報を共有し、授業に生かすという体制が自然とできあがってきた。道徳の研究をすることで職員全員で子どもたちの成長を見守ろうという意識が高まったように感じる。

だが、日々の忙しさにかまけて、道徳の授業について協同で研究する場を定期的に設けることができなかった。道徳の時間をこれまで以上に充実したものにするためには、研究体制を確立し、継続していくことが重要であると感じる。そして、道徳について職員同士で語り合える雰囲気をもさらに大切にしていかなければならない。

道徳の時間は「道徳的価値の自覚を深める時間」である。『学習指導要領解説 道徳編』には「道徳的

価値の自覚を深める」とは①道徳的価値について理解する、②自分とのかかわりで道徳的価値をとらえる、③道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われることである。この3つを達成するために、教師が一つの方法に固執せず様々な取り組みを検討し、有効な方法を実践することを心がけなければならない。それができる技量が高まってきたと感じられたことは研究の大きな成果であった。しかし、同じ指導案でも、教師により、生徒により、決して同じにはならない。今後も授業力向上のための研究体制は維持しなければならない。そして、互いに認めあえ、話し合いができる道徳の時間には、学級経営が大きく左右する。クラスの雰囲気、クラスで今何が起きているのかを敏感に察知し、子どもたちとともに考え、ともに学ぼうとする教師の姿勢を大切にしていかなければならない。目の前の生徒から学ぶ目を持ち続けたいと思う。

#### 《参考文献》

- 「中学校学習指導要領解説 道徳編 平成20年9月」 文部科学省  
「Q & A 道徳的実践力を高める道徳授業の改善のポイント」 岩上 薫 編集  
教育開発研究所 2009. 9
- 「生徒の心に響く中学校道徳授業～願いや思いをもつことから始める」  
松原 好弘 著 明治図書2009. 8
- 「中学校 新学習指導要領の展開 道徳編」 加倉井 隆 著 明治図書 2008. 12
- 「新教育課程の授業戦略No.4 各教科で行う道徳的指導」 押谷 由夫 著 教育開発研究所  
平成21年7月
- 「三訂 道徳教育を学ぶ人のために」 小寺正一 藤永芳純 著 世界思想社 2010. 4
- 「道徳教育推進教師の役割と実際 心を育てる学校教育の活性化のために」 永田繁雄・島恒生 編  
教育出版 2010. 8

## 実践1 3年生

授業者 西川祥子

1. 主題名 「真の友情」《内容項目 2 - (3)》
2. 資料名 「ライバル」《「自分をのぼす」あかつき教育図書》

### 3. 主題設定の理由

#### (1) ねらいとする価値について

人は誰しも迷い、苦しむことがある。そんな時、支え励ましてくれる存在というものは大切なものである。それは時に家族であり、時に友人であったりする。それぞれに家族だからこそ、友人だからこそ理解できるものがあり、それぞれの存在が必要不可欠なのである。

思春期の中学生にとって殊に自分を受け入れ、自分を理解してくれる友人の存在は大きい。生きていく中でどんな友人に出会いどんな友情を育むかは、自分を高め成長させる上で重要であろう。指導にあたっては、友達との楽しい思い出が友情であるといった表面的な部分だけでなく、その喜びや楽しさは、友を信じる心、友を尊敬する心に支えられていることに気付かせたい。

#### (2) 生徒について

生徒間は表面的には仲が良く、行事ではリーダーを中心にみんなで活動に取り組んでいる。しかし、附中杯のダンスリーダーや音楽会の指揮など前に出てくる生徒はいつも同じで、やってみたくらいながらも友達に遠慮して言い出せなかったり、仲のよい子に能力があっても友達の反応を心配して推薦しづらかったりする。そして個人的にあとで教師に意見を言うような生徒もいる。

このようなことから考えると、グループ間でも過剰に信頼関係を崩すのではないかと心配したり、自分のことばかり考えて、全体のためを思っている行動を渋りがちであったりする生徒がいると言える。3年生はこれから受験に向けて、クラス全員で励まし合いながらがんばっていかねばならない今、他を思いやり、互いに信頼する心の大切さを実感し、困難をともに乗り越えようとする心情を高めていきたいと考える。

#### (3) 資料について

仲の良い友人である啓介と康夫は、水泳ではライバルである。しかし、啓介はいつも康夫に負けてばかりで、二番手に甘んじていた。そんな中、康夫が入院し、啓介にチャンスが舞い込んでくる。この二人の心の葛藤に注目させながら、二人の友情にひびが入りそうになりながらもお互いがお互いに信じ合い、認め合い、励まし合うことを通じて、より強固な絆で結ばれていくことを読み深めさせたい。立場の異なるそれぞれの思いに共感しながら、真の友情とは何かについて考えが深められる資料である。

### 【板書計画】

康夫

啓介

真の友情とは?

信頼関係  
支え合い・認め合い  
敬愛の念

これで優勝できる  
・心の中でほっとしている  
・励ましの言葉が見つからない  
・自分だけ試合に出られて  
申し訳ない

弱い自分から抜け出したい。康夫のつらい気持ちを分かかってあげたい。康夫を励ましたい。

僕の方までがんばってくれよ。治ったらまた一緒に泳ごう。

・啓介に追い抜かれてしまつ  
・啓介がうらやましい  
・どうして僕だけこんな病気



#### 4. 本時の目標

真の友情や友の尊さを理解し、信頼と敬愛の念に支えられた友人関係を築こうとする態度を育てる。

#### 5. 本時の展開

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	留意点
導入	自分たちの友達に対する意識を整理する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     みんなにとって友達ってどんな人ですか。                 </div>	項目カードを準備する。
展開	資料を読む。 ○啓介と康夫の関係を整理する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     啓介から見た康夫、康夫から見た啓介はどんな友達なのだろう。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仲のよい友人</li> <li>・ ライバル</li> <li>・ 啓介は康夫に勝てない</li> </ul>	康夫が水泳選手として絶望的な状態にあることを把握させる。
	○見舞いに行けない啓介とそれを受け入れがたい康夫の気持ちを考える。	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">                     啓介が康夫の見舞いに足が向かなかったのはなぜだろう。                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">                     入院している康夫は啓介にどんな思いをもっているだろう。                 </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分が試合に出られて申し訳ない。</li> <li>・ 啓介がうらやましい。</li> <li>・ 康夫を励ます言葉が見つかからない。</li> <li>・ 啓介に追い抜かれてしまう。</li> </ul>	クラスを二つに分け、二人の立場を明確にしてそれぞれを考えさせ、意見を交流させる。自由指名で活発な意見交流を促す。
	○啓介と康夫のお互いに対する気持ちを考える。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     啓介が康夫を見舞いに行くのを決心したのはどんな気持ちからだだろう。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達の不幸を喜んでいる自分から抜け出したい</li> <li>・ 康夫のつらい気持ちがよくわかるから。</li> <li>・ やっぱり自分にとっての最高のライバルは康夫であり、その康夫をなんとか励ましたい。</li> </ul>	「たまらなく恥ずかしくなってきた。」の表現から康夫の気持ちを考えさせる。
	○友人とのかかわりについて考える。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     康夫はどんな思いを手紙にしたためのだろう。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 僕の方までがんばってくれよ。</li> <li>○ 今は練習できなくて辛いけど、早く治して絶対追いついてみせるよ。</li> <li>○ 僕もまた選手としてがんばるよ。その時はいっしょにがんばろう。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     これからこの二人はどんな友情関係を築いていけるだろう。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 互いに励ましあえる。</li> <li>・ 思いやりをもてる。</li> <li>・ 互いに認めあい、信頼しあえる。</li> </ul>	啓介の気持ちを康夫が察したかを考えさせる。
終末	教師の説話 感想をまとめる。	授業前の考えと、授業後の考えをまとめる。	

## 6. 結果と考察

導入に友達に対するアンケート結果を使おうとしたが、一般的な傾向が見られただけで、これといった特徴はみられなかった。そんな時、友達意識において年代で大きな違いがあることをニュースで知った。そこで、メルアドを知っている、挨拶をする、家に遊びに行く、携帯で話をする、相談に乗ってくれる、かばってくれるなどのカードを用意し、生徒に聞きながら友達か、友達ではないかを分類しながら「友達」について考える雰囲気を作っていた。このことはお互いの「友達」への意識の違いに気付かせ、驚きや発見を見いだした。楽しく分類がすすみ、思っていた以上に時間がかかってしまった点が反省である。

資料を分析する中で、主な登場人物が二人おり、その二人の心情を追っていくことで嫉妬やお互いの失敗を喜ぶ醜い心などが出てくると考えた。そのことを効率よく考えるために、「啓介」と「康夫」の二つの立場に分けて考え合った。道徳の授業は一人の心情を追っていくのが基本だとは思っていたが、友達に関して考えるということはお互いの気持ちを考えることだと判断し、二人の心情を同時に整理する方法をとった。結果として時間の短縮になり、よかった。コの字に机を配置し、両側に二分したのも生徒にとっては分かりやすかったようだ。また、板書も左右に二分し、生徒から出た二人の気持ちを板書していったため、自分が今どの立場を考えているかもわかりやすかったようだ。

中心発問は「康夫はどんな思いを手紙にしたためのだろう。」としてロールレタリング的に書かせ、中心人物「康夫」の心情に迫ろうと考えた。しかし、手紙文にしたために、全員同じような文面になってしまったように思う。「たまらなくはずかしい」「熱いものがこみ上げてきた」などの康夫の描写に注目し、康夫の心の変容から信頼に支えられた友情について深く掘り下げて考えるべきだった。

授業は前半は笑い声を交えながら、中心発問のあたりはしっとりとした時間が流れていた。そして後半、自分たちの生活にもどすポイントにさしかかった。授業を行ったクラスは学校行事の中でブロックでも、クラスでもこれまで勝つことができず、悔し涙を流していた。しかし、最後の行事「音楽会」で初めてブロック優勝を勝ち取ることができた。これまでうらやましいという感情から妬み、文句ばかり言っていた生徒たちであったため、喜びもひとしおであったようだ。しかし、行事後の学級通信に載せようと書いてもらった感想に、「今まで○クラスの子たちに嫌みを言ったりしたことはよくなかった。勝者をたたえるということを学んだ。」と書いた生徒Aがいた。この言葉は私が今までこのクラスと過ごしてきた中でみ



本当はうれしかったが、素直に喜べなかった。というのも、君が僕が病気になったことに対して喜びを感じているのではないかという思いが脳裏をよぎったからである。しかし君は僕にとってかけがえのない友人だ。つまらない思いをめぐらしてしまって本当にすまない。僕の思いを背負って日本一の夢を叶えてほしい。心から応援してる。見舞いに来てくれてありがとう。 [生徒の手紙文]

啓介へ この間はせっかくお見舞いに来てくれたのに、冷たく接してしまって本当にごめん。病気で身体だけでなく心も負けていたんだ。泳げる啓介をおれはうらやましく思ったり、ねたんだりしていた。でもこのままではだめだ。この一年間、僕は身体と心の病気に勝ち、必ずお前に追いついてみせるから、お互い励まし合っていこう。 [生徒の手紙文]

んなに気づいてほしいと願っていた気持ちであった。受験を控え、これから勝者・敗者が否が応でも区別されていくこの時期、生徒達に努力することの大切さ、支えてくれた人たちへの感謝、そして、一緒に努力した者達への称賛の気持ちをもってほしいということである。真の友情とは、「認め合い、尊敬しあえること」「信頼関係」「心と心の絆」そんな考えが出たあと、生徒Aの感想を読み上げた。生徒からは歓声と拍手が起こった。感想を書いた生徒は照れながらも、誇らしい表情を見せた。生徒に光が当たった瞬間だった。そして、この生徒の感想が載った学級通信を配布した。それを読む子ども

もたちの表情は明るかった。

最後に教師の体験談を語った。中学生のころ、友達について母親から言われた一言だった。「どんな友達を作るかが大切じゃない。あなた自身がその子にとって本当にいい友達になれているかどうかが大切なのよ。」子ども達からは「深い～」 「心にぐっときた」という声が上がった。

最後に、子ども達に授業を受ける前と、授業後の考えの違いを記入してもらった。

今年で最後の音楽会。思い切って指揮者をしたい！と手をあげたものの、音楽的なことは全然分からない私は、不安ばかりでした。ブロック練習はみんな喋ってなかなか練習が始まらないし…でも、いざ歌ってみると、本当にすごかった！！ 服装もめっちゃみんなに厳しく言ったし、上手く行かない部分は、何回も何回もやりました。でも、このCブロックなら優勝できると思ってたから、自らが嫌われ役に…。でも、Cブロックのみんなは、私や、リーダーの人たちに必死についてきてくれました。その結果、ブロック最優秀賞をとれて、ほんとにうれしすぎました！！ 本当に、ブロックのみんな、クラスみんな、ありがとう！！

もう一つこの音楽会を終えて気づいたことがあります。附中杯のとき、B組がほとんどの賞を独占し、私たちは「悔しい悔しい」「何なよ」って思ってたけど、昨日から今日にかけて、B組の子たちは「おめでとう！」って言ってくれました。だからあの時のC組の態度は幼稚で本当に申し訳ないなと思いました。『勝者をたたえる』また一つ勉強になりました。 [学級通信 生徒A感想]

#### 生徒の授業後の変容

授業を受ける前は、自分が友達だと思ったら友達と考えていたけど、授業を終えて、相手が自分を受け入れてくれて友達がスタートするのだと思った。

授業を受ける前は、ライバルに対して失敗しろ！とか悪いことを考える心はあった。授業を終えて、友達って嫌になる部分もあるけれど、そんなところも全部好きになれるのが本当の友達だと思った。

授業を受ける前は、ライバルに対して啓介と同じ感情を抱いていた。授業を終えて、ライバルであったとしても、お互いに励まし合って競争しあえて、互いの実力がより増すような友達、親友の存在を大切にしていきたいと思った。

授業を受ける前は、メアドを知ってるだけでも、友達だと言えると思ってたけど、授業を終えて、本当の友達はそんなんじゃないって、いつでも支え合って、頼り合える存在が友達なのかなって思いました。

授業を受ける前は、友達って私は大好きだけど、その相手はどう思っているかは分からなくて、ただ自分がよければ、そして、自分が悪い状況にあるとムカツクって思っていました。授業を終えて、友達っていうのは深くて難しいものだけど、やっぱり良いなあと思いました。

授業を終えて、真の友とは心と心が通い合い、愛をもって接し合えるものである。これを真友または心友と呼ぶのだと思った！！

今回の道徳の授業はまさに担任だからこそできた授業であった。日頃の学級経営の中から得た生徒の情報を敏感にとらえ、それを効果的に子ども達に返すことで子ども達から生き生きとした表情を引き出せたと思う。また、導入の問いかけも担任として子どもの様子をしっかりと捉えられていると、掛け合いを楽しみながら「テーマ」について考える意識付けができると感じた。しかし、この授業の流れでいくと時間が足りない。前半の登場人物の整理、二人の気持ちの整理をテンポよく進め、中心発問にもっていくべきであった。授業の反省点は多々あるが、うれしかったのは、子どもたちが後日友達との会話の中で「友達なら称え合わなきゃ」とか「それって本当にいい友達なの」などと話しているのを耳にしたことである。道徳の授業は教材ごとにいろいろと進め方があるし、発問の仕方も導入や終末もちがう。しかし、子どもたちの道徳の時間を大切にする教師の意気込み、子どもたちが道徳の時間に発見した驚きは子どもの心の中に生きていくのだと感じることができた。

1. 主題名 「きまりを守る」《内容項目4－(1)》
2. 資料名 「元さんと二通の手紙」《「自分をのばす」あかつき教育図書》

### 3. 主題設定の理由

#### (1) ねらいとする価値について

私たちが生活している社会の中には、必ずきまりやルールがあり、必ず守らなくてはならないものである。一人ひとりがそれらを守ることによって、社会の秩序が維持され、個人の自由が保障されている。しかし、これらのことをどれだけ理解していても、権利ばかりを主張し、個人に課せられた義務を果たさずとしていなければ、社会を維持していくことは難しい。一人ひとりが他人の権利を尊重し、自分の権利を正しく主張することとともに、社会のきまりやルールを守るなどの義務を果たさずとする態度が大切である。中学三年生ともなると、社会の仕組みをある程度理解できるようになり、世の中にたくさんのルールやきまりが存在することもわかってきている。また、社会の中で人間としての生き方についての自覚も深まってくるため、きまりやルールについての意義もある程度は理解をしている。ただ、自己を主張したり、社会や大人に対し反発したりすることも強くなっていくため、きまりやルールを守ることは「拘束されている」「自由を失っている」といった若者特有の感情になってしまうこともある。そのため自分が果たさなければいけない義務を果たすことができなかつたり、自己中心的な考えを持ったりしてしまうことにつながっていく。

#### (2) 生徒について

本学級の生徒は、活発であり、あらゆる活動に意欲的に取り組むことができる。学校行事では、学級だけでなく他学年にも協力を促し、練習し応援し合うことで、互いに高め合う関係を築くことができた。そこから学級への所属感やそれぞれの責任感、そして学級全体での連帯感を感じている。しかし、進路決定を間近に控えた今、生徒たち自身の意識が学習に対して大きく傾いているためか、学校で決められたきまりを破る、時間を守ることができないなど、その時の雰囲気流されて、守らなければならないという意識が低いといった場面が見られることもある。そこで、社会の一員として、きまりやルールを守り、またそれらの意義を十分に考えることができるよう工夫し、自分の考えだけでなく、他の意見も参考にしながら社会の秩序と規律について深く考えさせたいという思いからこの主題を設定した。

#### (3) 資料について

本資料は誰もが感心する働きぶりの動物園の職員の元さんが、幼い姉弟への同情心からきまりを破り、その結果、会社を解雇されるという話しを通して、ねらいに迫るものである。元さんの行動は、心情的には理解できる部分があるが、そのために多くの人に迷惑をかけることになってしまった。元さんへの二通の手紙について考えることで、きまりやルールの意義や、きまりと公私との関わり、自他の権利と義務について考えを深めることができる。特に、個人的な感情による行動は社会の秩序を乱し、他者の権利を奪ってしまうことにつながるということについて考えさせたい。

### 4. 本時の目標

秩序と規律のあるよりよい社会をつくるためには、きまりについての意義を正しく理解し、きまりを守るということが大切であるということへの自覚を深める。

## 5. 本時の展開

	学習内容	発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート結果を振り返りながら、附属中学校のきまりについて考える</li> </ul>	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">附属中学校のきまりについて考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇必要なきまりである</li> <li>◇めんどろ</li> <li>◇どうして附属中学校だけ厳しいのか</li> </ul>	アンケート結果を振り返り、本校のきまりやルールを提示する
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料を読む</li> <li>元さんの気持ちを考える。</li> <li>元さんが学んだことを考える</li> <li>自分のきまりに対する考えを広める</li> </ul>	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">あなたは元さんの行動についてどう思いますか。</p> <p>【支持する】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇姉弟の気持ちを見ると当然である</li> <li>◇特別があってもいいのではないか</li> <li>◇何日も姉弟の様子を見てきたから</li> </ul> <p>【支持しない】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇規則を守っていないから</li> <li>◇危険だから</li> <li>◇迷惑をかけることになるから</li> </ul> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">はればれとした顔で身の周りの片付けを始めた元さんの気持ちはどんなものだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇情に流されてしまうことの重大さがわかった</li> <li>◇きまりを守ることの大切さ</li> <li>◇きまりを破ったことは間違いであり、母親に喜んでもらったこととは別の問題であることに気づいた</li> </ul> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">元さんが「この年になって初めて考えさせられたこと」とは何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇規則を破ると、結局は多くの人に迷惑をかける</li> <li>◇今回はたまたま喜んでもらったが、規則に従わないと何が起こるかわからない</li> <li>◇取り返しのつかないことになってしまう事もある</li> </ul>	<p>「支持する」「支持しない」両方の考えの価値を理解させる</p> <p>元さんの気持ちからきまりやルールの意義について考えを深めさせる</p> <p>きまりやルールを守ることがなぜ大切なのか、自身の体験や元さんの体験したモデルから考えを深める</p>
終末	<ul style="list-style-type: none"> <li>振り返り</li> <li>教師の説話</li> </ul>	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ルールやきまりを守ることはどうして大切なのか、この時間に考えたこと、感じたことをまとめましょう。</p>	学習前と後の考え方などの変化や、学習を通して気づいたこと、理解したことなど、今後どう生かしていくかなどについて記述させる

## 8. 結果と考察

今回は生徒のきまりやルールに対してどのような意識を持っているか把握し、指導に生かすために事前にアンケートを実施した。

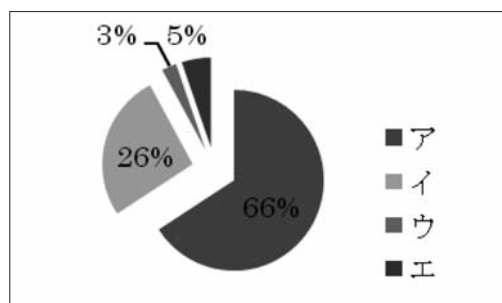
生徒の実態

### 【アンケート結果】

対象：和歌山大学教育学部附属中学校 3年D組（男子20名 女子18名 計38名）

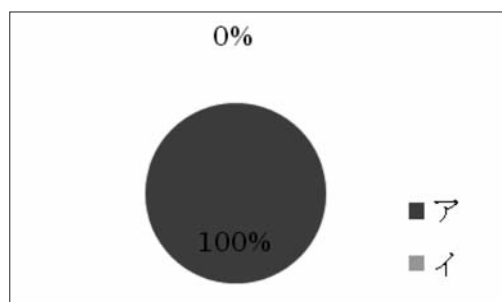
(1) 集団生活や社会生活で一番大切なことは何だと思えますか。一つ答えてください。

ア. 相手のことを考えること……………	25人 (66%)
イ. きまりやルールを守ること……………	10人 (26%)
ウ. しっかりと自己主張をすること……………	1人 (3%)
エ. その他…………… (礼儀を重んじ、慎ましやかにすること) (常識とマナー)	2人 (5%)



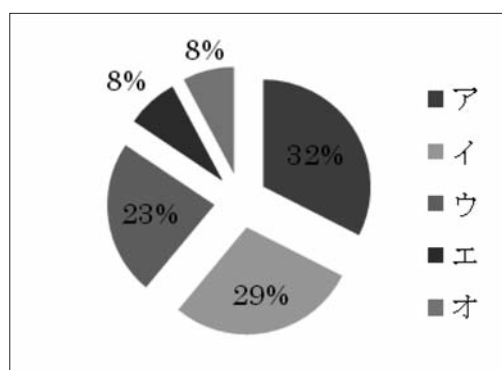
(2) 今までにきまりやルールを破ったことがありますか。

ア. ある……………	38人 (100%)
イ. ない……………	0人 (0%)



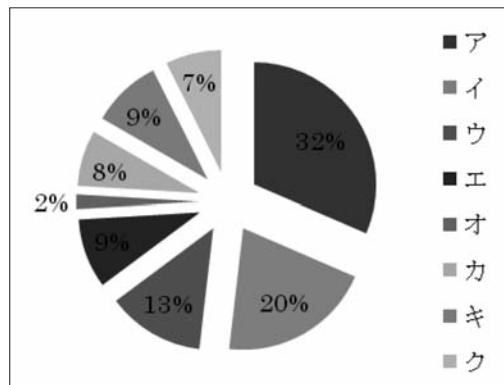
(3) あなたはどんなきまりやルールを破ったことがありますか。

ア. 学校でのきまりやルール……………	25人 (32%)
イ. 自分で決めたきまりやルール……………	22人 (29%)
ウ. 家族のきまりやルール……………	13人 (23%)
エ. 友だちとのきまりやルール……………	6人 (8%)
オ. 地域や社会でのきまりやルール……………	6人 (8%)



(4) あなたはどうしてきまりやルールを破ってしまうのだと思いますか。

ア. 周りも破っているから、 自分だけではないから……………	17人 (32%)
イ. きまりやルールを意識していないから…	11人 (20%)
ウ. 束縛されるのは嫌だから……………	7人 (13%)
エ. 周りのことを考えていないから……………	5人 (9%)
オ. どうでもいいから……………	1人 (2%)
カ. どうなるか考えていないから……………	4人 (8%)
キ. きまりやルールの意味がわからないから …	5人 (9%)
ク. その他…………… 前はばれなかったら大丈夫だと思ってしまっていたから やむをえないことがあるから 自分に甘いから 人に流されてしまうから	4人 (7%)



アンケート結果から、生徒たちは、学校や社会生活において、相手のことを考えたり、きまりやルールを守ったりすることが大切であると考えているが、多くの生徒がきまりやルールを破ることはいけないことだと理解しているのにも関わらず、アンケート(2)の結果から、全員が破ったことがあると答えている。そして、破っているきまりやルールの多くが学校でのきまりやルールであった。

そこで今回は資料の中に登場する元さんの気持ちを追いながら、きまりやルールの意義を正しく理解し、それ

を守る事がどのように大切であるかを探らせようとした。

今回の実践では、事前に実施したアンケート結果から、生徒のきまりやルールを守ることへの意識を導入部分で振り返った。きまりやルールを守ることは大切だと理解しているが、実際には守ることができていないという学級の実態から、生徒全員が同じスタート地点に立って展開に繋げていけたことができた。アンケート結果という生徒たちの生の声が十分に反映された導入ができたため、全員が納得しながら授業を進めることができた。

これまで学級では、仲間は、どんなことがあっても、相手を敬い、大切にし、優しい気持ちを持って接するようにと指導を続けてきた。比べるとゆっくりしたペースで進んでいるように見える生徒にも、常に声をかけ、サポートをし、気配りや心配りができる生徒がたくさんいる学級を目指してきた。そのことが関係しているのか、元さんの優しい行動という“優しさ”に生徒たちの目が集中してしまい、元さんをモデルに考えさせたかった「きまりやルールはどんなことがあっても守らなくてはいけないもの」という考えを引き出させる時間が足りなくなってしまった。そして、どうにかしてその考えに迫ろうと強引に補助発問をしてしまったことが今回



の大きな反省である。授業後のワークショップでも指摘していただいたが、生徒たちの多様な考えや声をたくさん拾いあげ、全体のものとしてく進め方の工夫が必要である。

#### 授業後の感想

- ☆今日の授業を通して、ルールは絶対に守らなければいけないのかということを考えさせられました。子どもたちが喜んでくれたことが、元さんにとってはよかったことだけど、ルールを守らなかったことで元さんが解雇処分になってしまって、途中で迷ってしまいました。けれど、親切だからなどということ言い始めたら、ルールを作る意味がなくなるので、ルールは守るべきだと思いました。
- ☆授業前は、善意や優しさがあればある程度は破ってもいいと思っていたが、授業後は、どれだけ優しさがあっても規則はやっぱり守らないといけないと、最悪の事態になってしまうこともあるので、守らないといけないと思うようになった。
- ☆今までは別に守らなくてもいいものだと思っていたが、自分の行動によって周りに迷惑がかかるかも知れないということを自分で考えないといけないと思った。
- ☆守らなければならないきまりと、そこまで厳しくないきまりがあると思っていたけど、冷静になってきまりを守るということをもう一度考え直してみようと思った。
- ☆私は規則があると苦しい感じがするので、必要がないと思っていました。しかし、守らないと周りの人に迷惑をかけてしまうなどと思うので、自分のためにも人のためにも大切なものと思い始めました。
- ☆きまりやルールよりも気持ちが大切だと思っていましたが、授業後は必ず守らなければならないものだと考えるようになりました。
- ☆元さんに届いた二通の手紙は全く別の喜びと悲しみの反対の内容だったけど、子どもと関連させると一つの内容だったのでとても考えさせられました。親切で優しいだけでなく、責任感を持ってきまりを守っていくことが大切だと実感できました。
- ☆今日の授業はとても悩みました。私も元さんの立場だったら、きっと中に入れてあげたと思います。きまりは守るためにあるのだけれど、時には融通を効かせられたらいいのになと思いました。
- ☆今日の授業で、ルールは守るべき事だということが分かった。自分の軽率な判断で子どもが危険な目にあったかも知れなかったし、他の人にも迷惑がかかってしまったから、自分で全て責任を負えないのに、そういうことはすることじゃないなと思った。判断するのは難しいけど、情に流されず、時には厳しくなるのも大切だと思った。
- ☆身の回りにあるルールには理由があることがわかった。自分のためでも他の人のためでもある大切なものだとわかった。私もこれからの生活で見直していかなければいけないことがあると思う。
- ☆今日の元さんの話の考えるところは、行動的には賛成だけど、やってはいけないことで、これから生活してく上で、自分がよいと思っても、やっぱり第一に“きまり”を守ることが大切だと思った。